

行政視察報告書

委員会名（会派名）	議会運営委員会	報告者	佐野大輔、岡山秀義、齋藤和也
視察日程	令和5年11月7日～9日		
調査事項 及び 視察地	① 埼玉県和光市	議会改革の取り組みについて	
	② 茨城県取手市	オンライン委員会の運営と議会改革の取り組みについて	
	③ 埼玉県所沢市	議会改革の取り組みについて	
参加議員（委員）	渡邊広宣、岡山秀義、齋藤和也、佐野大輔、田澤信行、藤井秀人、土田 昇、渡邊雄三、中山眞二		
<p>【調査目的・内容】</p> <p>平成23年度より施行された和光市議会基本条例をもとに、議会改革を積極的に進めてこられた和光市議会様から近年の議会改革にあたっての具体的な事例をお聞きし、今後の燕市議会の議会改革を進めるための参考にさせていただくために視察を行った。また、取り組みの課題なども併せてお聞きすることで、今後、燕市議会の議会運営委員会でも議論や実施を進めていく論点の整理も行った。具体的には下記の事項について、お聞きした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会改革を進めるにあたっての議会運営委員会の運営について ・陳情や議員提出議案、意見書案や決議案の取り扱いについて ・一般質問について ・議会のPRについて（議会広報、議会報告会など） ・設備の改善について ・議会のICT化の現状について ・条例改正の検討（反問権のあり方、議員報酬の見直しなど） ・研修等の充実 <p>【所感】</p> <p>① 議会運営委員会の進め方については、和光市議会さんでは、会派に所属する議員が議会運営委員会に所属し、全会一致で決定していく手法を取ってはいるが、その際に会派に所属しない議員も決議権はないもののオブザーバーとして参加した上で意見もしっかりと言えるという運営方法をとっており、現状、燕市議会では該当する議員はいないものの非常に参考となる事例であった。</p> <p>・一般質問については、予算のある3月、決算のある9月は30分以内、それ以外の6月、12月は40分以内と議会の状況の応じて臨機応変に時間を変更するなどの対応を行っており、既成概念にとられない運営方法については、こういった件以外にも柔軟に対応する姿勢を学ぶことができた。</p> <p>・議会報告会の実施については、予算と決算後の年2回開催しており、その中で住民と直接、意見交換会としてテーマを設けた上で議論を進めており、あわせて少人数で議論できるようにグループを分けて実施するなど工夫をされていた。また、多くの方から興味を持って見ていただけるようにYouTubeでのアーカイブも行われており、今後燕市議会でもYouTube配信を検討する必要性についても学ぶことができた。</p> <p>これらを踏まえて質疑を通して、実際に実施しての所感をお聞きしたところ、全会一致にしているところのハードルは非常に大変だった点やアーカイブとして議会報告でYouTube配信は行っているものの、議会のLive配信を行うには広告等の関係もあり非常に難しい旨の報告もあり、これらについては参考にしつつも実際の運用に向けて、燕市においては慎重に議論を重ねていく必要があると感じた。</p>			

【調査目的・内容】

全国議会改革度調査において3年全国トップスリーの取手市議会改革の取り組みについて学ぶ

【所感】

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、地方議会では、議員や関係者の新型コロナウイルス感染や濃厚接触者に該当等により、議場に参集することができず、議会を開催できないなどの事態が発生し、首長の専決処分を漫然と許すこととなり、議会不要論が増幅していた。取手市議会は「オンライン本会議の実現に必要となる地方自治法改正を求める意見書」を内閣総理大臣はじめ関係機関に提出。また、デモテック(デモクラシー×テクノロジー)戦略特別委員会を設置し、官民学連携により、オンライン模擬本会議を繰り返し開催するなど実務上の観点から検証、調査、新しい標準会議規則案の策定に向け全国でもいち早くオンライン本会議への取り組みを実践した。

実際オンライン会議ではZoomを使用し、試行錯誤しながら議員全員がオンラインを活用できるよう議会事務局職員が使い方を指導し、今では全員が活用できるようになったとの話しを聞き事務局の苦労が窺えた。

② 令和2年5月には議会基本条例に「情報通信技術の活用」を定め盛り込み、その後タブレット端末を貸与オンライン会議に有効活用している。オンライン委員会も既に60回を超えていると聞き驚いた。ZoomではAIを活用し、言葉だけではなく文字(字幕)で確認をしながら会議ができると聞いた。議会中にはよくある事だが、その人によって話し方、早口等、言葉が聞き取りにくい時がある。もう一度確認できない議会中などではこの読み取りAIは非常に有効な手段である。燕市でもすぐに導入するべきと考える。

また、中学生との協働事業の実施、YouTubeで配信している会議映像へのAI字幕表示、委員会における360度カメラの導入、ICTを積極的に活用し、市民に開かれた議会の実現を目指した活動などオンラインを最大限に活用していた。行動力と熱意、議会事務局と議員がオンライン事業に向けて一つとなった素晴らしい実例と感じた。

少子高齢化社会が到来する中で、妊娠、出産、育児、介護、自らの疾病によって容易に外出できない議員でも職責が果たせるよう、自宅や病室から議案審議、表決に参画する手段を取ることが議員の多様性確保の観点からも求められる時代である。燕市においても大切な議論と捉えなければいけない。

説明いただいた取手市議会事務局書記、高橋さんの熱い情熱を燕市議会事務局と共有し、燕市議会改革に繋げていきたい！！

【調査目的・内容】

議会基本条例の制定、自由討議など議員からの活発な意見が述べられる議会が構築された経緯と議員運営の現状について

【所感】

③ 議案や市の計画において、何がどう変わるのかを議員がしっかりと理解し、現状に合わせるための議会運営が行われていることが分かった。会派や派閥を超えた議員間の協議や意見交換も多く、当局の議案についての趣旨や目的を理解した上での修正や意見を持てる場を持っていることは燕市においても検討が必要だと考える。

【視察の様子】

① 埼玉県和光市



② 茨城県取手市



③ 埼玉県所沢市

